

埼玉県に住む外国人 — 国籍の傾向など

ぶぎん地域経済研究所 専務取締役／チーフエコノミスト 大西 浩一郎

JR大宮駅のコンコースでは多くの人が行き交っているが、外国人観光客を見かけることは思いの外少ない。一方で、埼玉県在住の外国人は多く、既に職場や地域コミュニティーの一部となっている。本稿では、「在留外国人統計」（出入国在留管理庁）や「住民登録台帳」（総務省）を用いて、国籍の観点を中心に県内在住の外国人等数の動向をみる。地域で存在感を高めつつある外国人住人のことを理解し、その先のコミュニケーション強化の一助となれば幸いである。

埼玉に住む外国人数の動向

埼玉県の在留外国人は2025年末時点で29.1万人おり、2026年初の県の推計人口732万人の4%に相当する^{*}。全国第5位の規模であり、1年前と比べると大阪府、千葉県、福岡県などと並んで2桁増となっている（図表1）。過去10年間の推移をみると、埼玉県では2倍強と全国を大幅に上回る増加となっている（図表2）。コロナ禍の際も殆ど減少しておらず、また、増加のペース（グラフの傾き）はコロナ禍明けに幾分高まっている。この背景としては、①人手不足感の高まりと為替円安による生活のしやすさという全国共通の点に加えて、②埼玉県経済の規模の大きさと首都圏という地理的利便性を挙げることができる。

図表1. 在留外国人上位10都府県（2025年末）

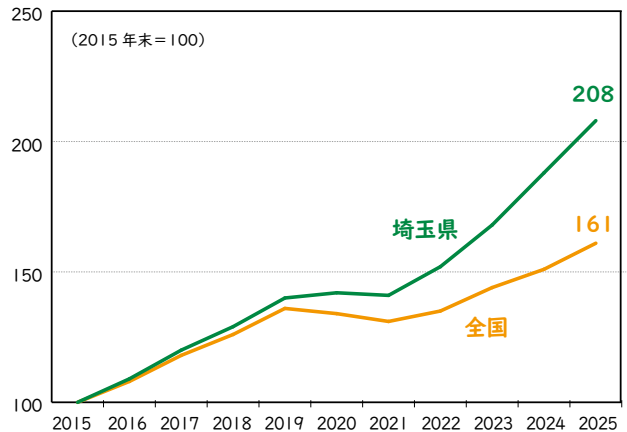
順位	訪問地	外国人数	前年末比増減率
1	東京都	80.1万人	8.5%
2	大阪府	37.5万人	12.5%
3	愛知県	35.8万人	7.9%
4	神奈川県	31.7万人	8.5%
5	埼玉県	29.1万人	10.9%
6	千葉県	26.0万人	12.1%
7	兵庫県	15.5万人	8.7%
8	静岡県	13.2万人	6.3%
9	福岡県	12.6万人	10.9%
10	茨城県	11.2万人	9.0%

（資料）出入国在留管理庁「在留外国人統計」。特別な断りのない限り以下同じ。

埼玉県の外国人の国籍

次に県内在留外国人の国籍をみると、1位は中国で30.8%、2位はベトナムで18.2%となっており、この2国で49.0%と全体の半分を占めている（図表3）。それ以降をみると、3位フィリピン（8.9%）、4位ネパール（7.1%）、5位韓国（5.4%）、6位インドネシア（5.0%）が続いている。このうち県内4位ネパールについては、人口が3,000万人しかおらず、わが国からの距離も遠い点を考えると幾分意外感があるが、ネパールが4位に食い込んでいるのは全国でも同様である（図表4）。中国、ベトナム、ネパールに限って、上位の在留資格をみてみると（図表5、全国ベース）、中国は永住者が圧倒的に多く、ベトナムは技能

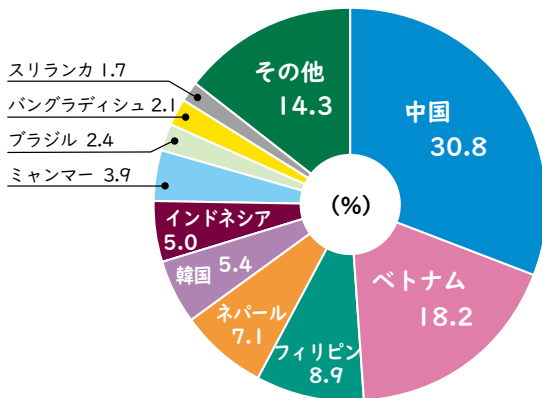
図表2. 在留外国人指数の推移



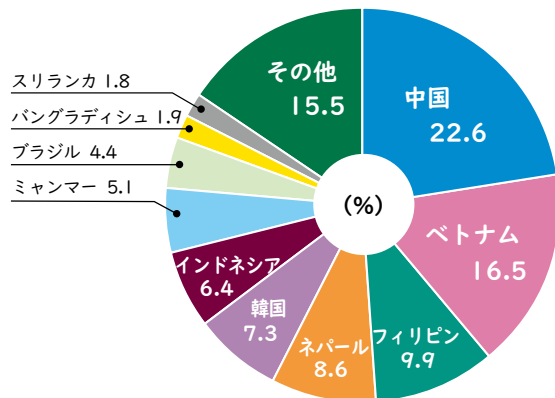
環境省、外務省など各種資料を基に当研究所で作成

^{*}外国人住人数の統計には、①在留資格の取得者を集計した「在留外国人統計」（出入国管理庁）と ②住所登録した者を集計した「住民基本台帳」（総務省）がある。住民基本台帳ベースの埼玉県の外国人比率は3.4%（全国3.0%、2025年初時点）。

図表3. 埼玉県・国別構成比 (2025 年末)



図表4. 全国・国別構成比 (2025 年末)

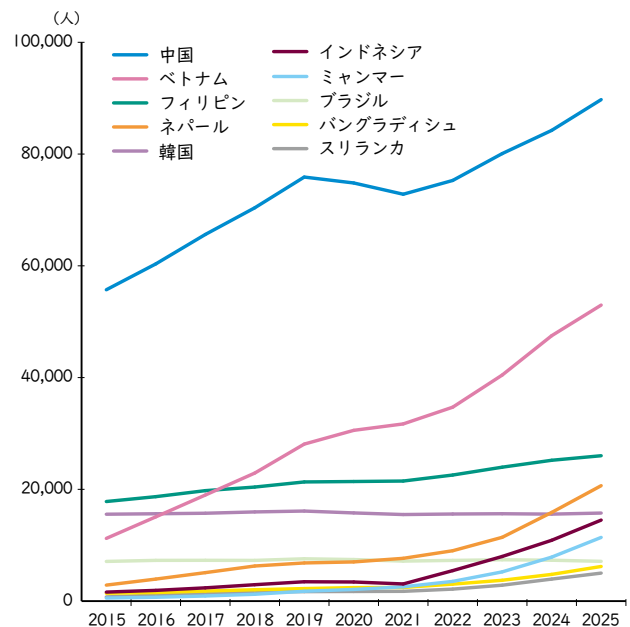


図表5. 中国、ベトナム、ネパールの上位在留資格 (全国、2025 年 6 月末)

国	在留資格	永住者	留学	技術・人文知識・国際業務	家族滞在
中国	在留資格				
	人数	350,722	140,164	114,124	87,431
ベトナム	在留資格	技能実習合計	特定技能合計	技術・人文知識・国際業務	家族滞在
	人数	198,417	148,486	117,094	70,536
ネパール	在留資格	留学	家族滞在	技術・人文知識・国際業務	技能
	人数	106,188	65,233	46,144	21,581

技術・人文知識・国際業務	大学や職務経験と関連する専門的な活動。単純労働は対象外。
特定技能	特定産業分野の知識、経験を要する業務、熟練した技能を要する業務に従事。
技能実習	技能実習計画に基づいた講習を受け、技能に係る業務に従事。
技能	外国料理の調理師など、特殊な分野に属する熟練した技能を要する。

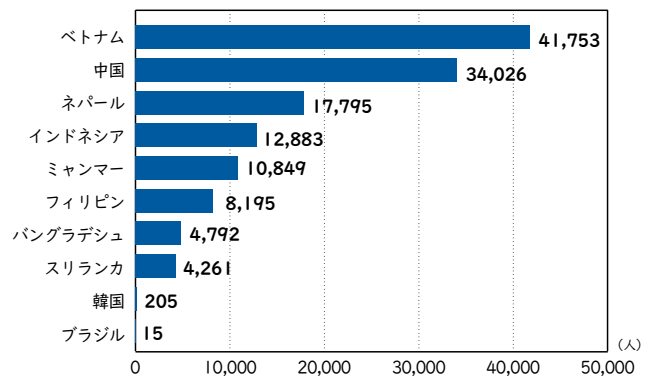
図表6. 埼玉県・国籍別推移



実習、特定技能の順で多くなっている。ネパールに関しては、留学、家族滞在が多いほか、「技能」が特徴的。ここには調理師が含まれるため、最近のインドカレー店の増加と関連している可能性がある。

過去 10 年間の国籍別外国人数の推移をみると、中国は一貫して最大規模であり、また高い増加ペースが続いている。しかし、ベトナムはそれを上回る増加ペースと増加数となっている (図表 6、7)。2015 年末時点では、ベトナムは中国、フィリピン、韓国に次ぐ 4 位であったが、2019 年～2021 年のコロナ禍でも増え続け、現在のプレゼンスとなっている。前述の在留資格の特徴を踏まえると、県内企業の人手不足の相応の部分をもベトナムからの労働者が補完していると考えられる。

図表7. 国籍別増減数 (2015 年末→2025 年末)

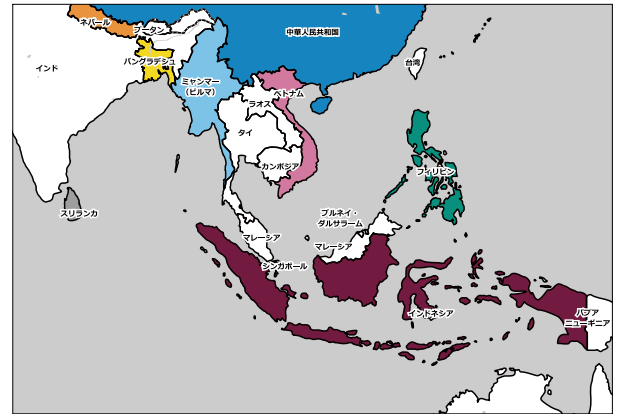


なお、規模の点ではベトナム、中国に及ばないが、ネパール、インドネシア、ミャンマーの増加ペースの高さも目立っている。埼玉県全体で倍増となる中、ミヤ

図表 8. 国籍別の増加倍率

	2015 年末	2025 年末	2015 年末比
ミャンマー	549 人	11,398 人	20.8 倍
インドネシア	1,614 人	14,497 人	9.0 倍
ネパール	2,862 人	20,657 人	7.2 倍
スリランカ	749 人	5,010 人	6.7 倍
ベトナム	11,221 人	52,974 人	4.7 倍
バングラデシュ	1,405 人	6,197 人	4.4 倍
中国	55,716 人	89,742 人	1.6 倍
フィリピン	17,820 人	26,015 人	1.5 倍
韓国	15,548 人	15,753 人	1.0 倍
ブラジル	7,101 人	7,116 人	1.0 倍
総数	139,656 人	290,937 人	2.1 倍

在留外国人の主な出身国



ンマーは 10 年前の 20.8 倍、インドネシアが 9.0 倍、ネパールが 7.2 倍、スリランカが 6.7 倍と、10 年間で様変わりとなっている（図表 8）。

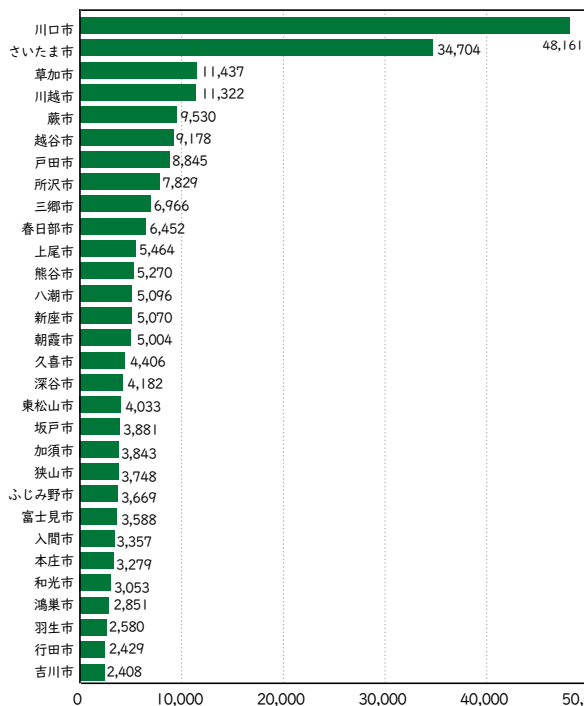
県内市町村の外国人の動向

本節では同時点の日本人の数との比較も行うため、「住民基本台帳」（総務省）を用いる。本統計は住所登録した者を集計しており、在留資格の取得者を集計した「在留外国人統計」とは人数が異なる（本統計の方が外国人数は少なくなっている）。県内市町村別の外

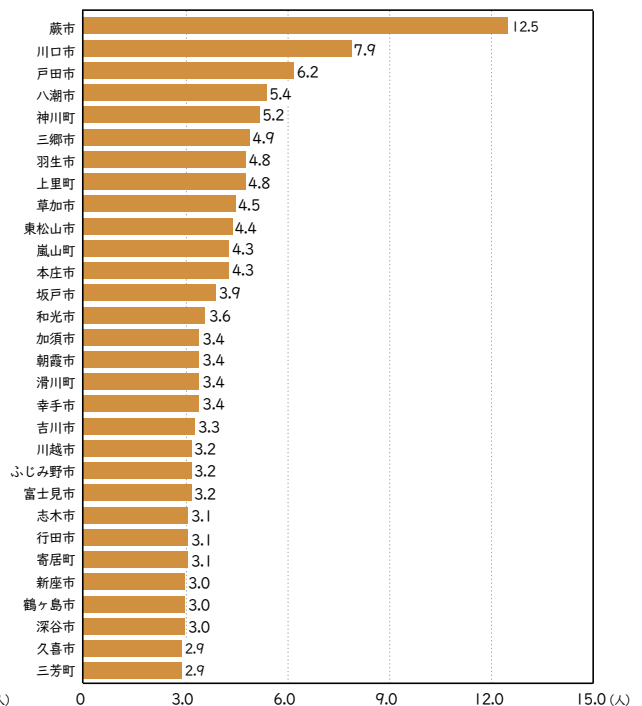
国人住人をみると、川口市の 4.8 万人が最大であり、以下、さいたま市（3.5 万人）、草加市（1.1 万人）、川越市（1.1 万人）の 4 位までが 1 万人を超える。次いで蕨市、越谷市、戸田市、所沢市と、県南部人口密集地帯の都市が並んでいる（図表 9）。

また、人口構成比でみると、蕨市が 12.5%と圧倒的首位である（図表 10）。以下、人数ではトップの川口市（7.9%）、続いて戸田市（6.2%）、八潮市（5.4%）といった具合に、県南部の都市が並ぶ。ただ、そうした都市部に混ざって、神川町（5.2%で 5 位）、上里

図表 9. 外国人住人数（2025.1.1 時点、上位 30 市町村）



図表 10. 外国人住人の構成比（2025.1.1 時点、上位 30 市町村）



（資料）「住民登録台帳」（総務省）

町（4.8%で8位）など、県最北部の町が上位に入る点は特徴的である。因みに過去10年間の構成比の変化をみると、蕨市は2015年の5.3%から2025年の12.5%へと、実に7.2ポイントも上昇した（図表11）。それほどではないにしても、川口市、神川町、羽生市も3ポイント以上上昇しており、住民は地域における外国人の増加を実感していると思われる。



主な市町村における外国人の国籍

最後に、前節の資料により外国人数が多い市町村や人口構成比が大きく上昇している市町村をピックアップし、それら自治体ではいずれの国籍の外国人が多いのかをみる（国籍のデータを含んでいる「在留外国人統計」（出入国在留管理庁）に基づく）。ピックアップした各市町村の国籍上位5つを並べてみると（図表12）、①川口市、さいたま市ほかの外国人数最上位の自治体では、1位中国、2位ベトナムという順番が共通しており、それ以外の春日部市から先ではベトナムが首位に立っている。

また、②3位の国をみると、川口市、さいたま市、草加市、越谷市の人数上位先では韓国であり、その次

図表 11. 過去 10 年間で外国人構成比の変化
(上昇幅上位 10 市町村)

		外国人構成比		
		2015 年	2025 年	上昇幅
1	蕨市	5.3 %	12.5 %	7.2 ポイント
2	川口市	4.3 %	7.9 %	3.6 ポイント
3	神川町	1.8 %	5.2 %	3.3 ポイント
4	羽生市	1.7 %	4.8 %	3.1 ポイント
5	嵐山町	1.4 %	4.3 %	2.9 ポイント
6	東松山市	1.7 %	4.4 %	2.7 ポイント
7	三郷市	2.2 %	4.9 %	2.7 ポイント
8	八潮市	2.9 %	5.4 %	2.6 ポイント
9	戸田市	3.7 %	6.2 %	2.5 ポイント
10	草加市	2.1 %	4.5 %	2.5 ポイント

の川越市、蕨市、戸田市、所沢市のグループではネパールとなっている。県央から東寄りには韓国、西寄りにはネパールといった傾向が存在する可能性がある。その他、③羽生市ではベトナムと並んでネパールの人数が多い、神川町はベトナム、上里町はブラジルに集中している。



今後も、県内の外国人住人の増加は続くと思われる。出身国の文化等を知るなど日本人、外国人相互の理解と行動により、職場や地域コミュニティーが健全に発展していくことを期待したい。

図表 12. 在留外国人数が多い市町村等における国籍上位 5 か国

(単位:人)

	1	2	3	4	5
川口市	中国	ベトナム	韓国	ネパール	インドネシア
	27,235	6,823	2,768	2,426	1,285
さいたま市	中国	ベトナム	韓国	ネパール	インドネシア
	13,322	5,575	3,239	2,586	1,254
草加市	中国	ベトナム	韓国	インドネシア	ネパール
	3,803	2,015	1,061	677	458
越谷市	中国	ベトナム	韓国	バングラディッシュ	インドネシア
	2,933	1,444	720	500	483
川越市	中国	ベトナム	ネパール	韓国	インドネシア
	2,909	2,648	1,885	526	416
蕨市	中国	ベトナム	ネパール	バングラディッシュ	韓国
	6,319	1,233	759	432	352
戸田市	中国	ベトナム	ネパール	韓国	ミャンマー
	4,039	1,607	693	673	395
所沢市	中国	ベトナム	ネパール	韓国	インドネシア
	2,311	1,435	685	652	501
三郷市	中国	ベトナム	バングラディッシュ	韓国	インドネシア
	1,963	1,803	492	422	411
春日部市	ベトナム	中国	インドネシア	パキスタン	ネパール
	1,455	1,278	553	430	386
八潮市	ベトナム	中国	韓国	インドネシア	インド
	1,542	1,033	331	312	280
東松山市	ベトナム	中国	ブラジル	ネパール	スリランカ
	1,203	536	438	354	282
羽生市	ベトナム	ネパール	パキスタン	中国	スリランカ
	510	468	316	277	167
神川町	ベトナム	インドネシア	ブラジル	中国	ネパール
	331	67	60	36	29
上里町	ブラジル	ベトナム	インドネシア	中国	ペルー
	569	271	145	134	63